

in 湖北

特集

# アクティブ「夢～舞めんど」!

湖国21世紀記念事業

## 「夢～舞めんどと滋賀」から生まれつつあるもの



### 「水といのち」の

### 小さなムーブメントが

### 大きくなっている...

自然環境を大切にしよう



今号の特集は、湖国21世紀記念事業「夢～舞めんどと滋賀」(二〇〇一年三月二十四日～十一月十八日まで開催)に採択された県民活動を取材しました。この事業には、以前から地道に続けられてきたもの、新たにチャレンジされたものなど、県内各地の三五団体が参画しました。本誌では、活動団体にエールを送るとともに、読者のみなさんの新しい活動への足がかりになればと、スタッフが興味を持った湖北のグループをいくつか紹介します。

活動のテーマは「水といのちの対話」自然と文化の新たな実験。『水といのち』をめぐる課題に取り組んだ小さなムーブメントが、大きなうねりとなりました。

「夢～舞めんどと滋賀」のステージには、多くの人たちが登場しました。でも、ライトに照らされ、満場の拍手をあびるために、舞台上上がったわけではありません。特定の場所、いつきに華やかに燃え上がる打ち上げ花火ではなく、淡海の地どこへ、いつ行っても夢が舞っている。それが二十一世紀の滋賀の夢～舞めんどなのです。記念事業はとりあえず幕を閉じました。が、クロージングは、これからの活動やステップアップをめざした新たな始まりでもあるのです。湖北に展開するさまざまな活動から、自然環境を大切にしたい新しいしくらし方が見えてきます。

夢～舞めんどと滋賀の秋イベント

# 「エコ旅フェスタ」の

## 出会い

## から



「エコ旅フェスタ」について知る「エコツアー情報」今森光彦さん、須藤成さんによる映像で滋賀の自然が体験できる「エコツアーシアター」、自然素材や伝統技術を題材にした体験メニューのあった「淡海の体験コーナー」、淡海の味覚を楽しむ「おとふれあいのソング」など、あなたも、滋賀の貴重な自然環境にだけ出会いましたか?

**レストランお NIGHT サービス**

毎月第3日 各日 PM5:00

**おとふれあいの NIGHT**

男性グループのみ乾杯  
グラス生ビールソフトドリンクを1杯ずつサービス  
& お食事代1割引

**COUPLE'S NIGHT 水木**

恋人・ご夫婦・親子など男女ペアで!!  
お好きな料理! 自由にコース内容  
(スープ・サラダ・デザート・ドリンク)をサービス  
& グラスワインを1杯ずつサービス

**水**

女性グループだけで楽しく!!  
ソフトドリンク飲み放題  
& お食事代1割引

レストラン **びわ**  
びわ湖環境国際観光旅館 TEL. 0749-72-3555



十月六日～十月二十八日  
米原駅東口周辺



▲指導員の説明を聞きながら自然に親しむ参加者



▲美しい伊吹山を守ろうと山頂周辺の清掃も

この記念イベントの趣旨について滋賀自然観察指導者連絡会事務局の平松光三さんは、「従来通り」の指導員による一方的な説明よりも、自然の中で参加者も共に一緒に発見できる「体験型」の観察会というスタイルを、今後進めてゆきたい。その方が知識だけでなく、感性によって自然を学ぶことができ、今後の行動力や実践力にもつながってゆきます」と語る。

その成果は、参加した子どもたちの感想文からも明らかで、「ルリトラノオがきれいだった」「伊吹山の自然についてもっと知りたい」「来年もぜひ行きたい」などの声寄せられた。

一度踏み荒らされた部分が再生するには、少なくとも二、三年が必要。最悪の場合、一度と植物が生えないこともある。それほど、高山植物は繊細なんです。しかも、一度荒らされると、そこは入って良い場所と勘違いして、次々に人が踏み込むという悪循環も起きています。読者の皆さんにはぜひご理解のほどを、このこ

「伊吹山自然保護ツアー」と「伊吹山親子自然体験ツアー」では、山頂での自然観察会はもちろん、記念イベントとして自然体験活動にチャレンジした。説明を聞くだけでなく、実際に活動することを通して、自然や環境について学ぶことをねらいとしている。

参加者は自然観察ビンゴゲーム（ネイチャーゲームの一つ）や、自然保護啓発ボードづくり（柵を越えて踏み荒らされたお花畑に、啓発用の立て看板を作って立てる）などを行い、下山時には全員で山頂周辺を清掃した。

この記念イベントの趣旨について滋賀自然観察指導者連絡会事務局の平松光三さんは、「従来通り」の指導員による一方的な説明よりも、自然の中で参加者も共に一緒に発見できる「体験型」の観察会というスタイルを、今後進めてゆきたい。その方が知識だけでなく、感性によって自然を学ぶことができ、今後の行動力や実践力にもつながってゆきます」と語る。

その成果は、参加した子どもたちの感想文からも明らかで、「ルリトラノオがきれいだった」「伊吹山の自然についてもっと知りたい」「来年もぜひ行きたい」などの声寄せられた。

残念ながら、観察会を行う度に目に入るのは、美しい植物だけでなく、ゴミと踏み荒らされたお花畑だ。最近、日本の有名な登山家が「清掃登山」なる活動を行っている。山のゴミは誰が捨てたものかといえば、登った当人たちである。わざわざゴミを捨てるために山に登る人などいないのだから。

例年のお花畑の観察会は、同時に指導員によるマナーアップのための活動でもある。高山植物の自生している領域には柵が設置されているが、奥の方の珍しい花の写真を撮るため、柵の中へ踏み込む人は後を絶たない。

一度踏み荒らされた部分が再生するには、少なくとも二、三年が必要。最悪の場合、一度と植物が生えないこともある。それほど、高山植物は繊細なんです。しかも、一度荒らされると、そこは入って良い場所と勘違いして、次々に人が踏み込むという悪循環も起きています。読者の皆さんにはぜひご理解のほどを、このこ

この記念イベントは、今後も同じような形で行っていきたいとのこと。そのためには、指導員がもっと自然に詳しくなる必要がある。指導のためのテキスト改編なども現在進行中だ。

毎年の山頂自然観察会は、十日間、午前・午後と行われるが、そのスタッフを集めるにも大変な苦労をしているという。それを支えているのは、かけがえのない自然を、なんとしてでも残さねばならないという、滋賀自然観察指導者連絡会の方々の情熱である。

最後に平松さんが観察会に参加された方々に必ず伝えているメッセージを紹介しておこう。

「自然はわたしたちだけのものではありません。未来の子どもたちにもこの素晴らしい自然を残していくよう、みんなの力で自然を守ってゆきましょう。」（まこと）

### 感性によって自然を学ぶ

「伊吹山自然保護ツアー」と「伊吹山親子自然体験ツアー」では、山頂での自然観察会はもちろん、記念イベントとして自然体験活動にチャレンジした。説明を聞くだけでなく、実際に活動することを通して、自然や環境について学ぶことをねらいとしている。

この記念イベントの趣旨について滋賀自然観察指導者連絡会事務局の平松光三さんは、「従来通り」の指導員による一方的な説明よりも、自然の中で参加者も共に一緒に発見できる「体験型」の観察会というスタイルを、今後進めてゆきたい。その方が知識だけでなく、感性によって自然を学ぶことができ、今後の行動力や実践力にもつながってゆきます」と語る。

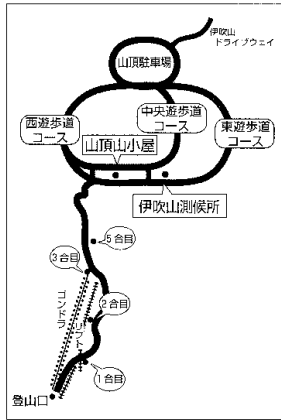
### 観察と同時にマナーアップも

残念ながら、観察会を行う度に目に入るのは、美しい植物だけでなく、ゴミと踏み荒らされたお花畑だ。最近、日本の有名な登山家が「清掃登山」なる活動を行っている。山のゴミは誰が捨てたものかといえば、登った当人たちである。わざわざゴミを捨てるために山に登る人などいないのだから。

この記念イベントは、今後も同じような形で行っていきたいとのこと。そのためには、指導員がもっと自然に詳しくなる必要がある。指導のためのテキスト改編なども現在進行中だ。



▲濃いピンクのシモケツゾウが群生した山頂お花畑



## 滋賀自然観察指導者連絡会

# 知識と感性での学びを 実践力につなげたい

伊吹山で自然観察を十数年



### DATA

#### 滋賀自然観察指導者連絡会

◆問合せ  
平松光三さん  
彦根市中鼓町687-27  
TEL. & FAX. 0749-26-0510

### 地元の人たちにもっと知ってほしい伊吹山

伊吹山は、標高二三七七mと高山と呼べるほど高くはないのだが、みごとなお花畑をもつ、近畿では数少ない山のひとつだ。これは、夏は伊勢湾、冬は琵琶湖と若狭湾からの湿気が多い季節風にとらされているという気象条件による場所が大きいという。

伊吹山には、関ヶ原からドライブウェイが八合目まで通じていて、そこから散策道を四十分ほど頂上にとどり着くことができる。道沿いには、高山植物の茂る「お花畑」が広がっているが、その見頃は八月の上旬。毎年その時期に、滋賀自然観察指導者連絡会主催の伊吹山頂自然観察会が行わ

れている。この会は（財）日本自然保護協会に認定された自然観察指導者を中心に組織された団体で、昭和五十五年に発足。会員数は現在約二百五十名で、県内に七つの支部をもち、各地で自然観察会を企画運営している。

伊吹山頂自然観察会は、昭和六十三年に始まった。伊吹山の植物などの説明を行って、自然保護への意識を高めてもらうこと、お花畑への侵入などによる自然破壊をくい止めるために、マナーアップを目指した取り組みを進めることが主な目的だ。

すっかり定例となった山頂自然観察会に、今年度は「夢〜舞めんと滋賀・湖国21世紀事業」の一環として、特別企画「伊吹山自然保



▲地元の人たちを対象に行われた山頂自然観察会



▲立ち入り禁止区域に一人が入り込むと、次々に踏み込む人が出てくる。